



県政報告 Vol.38

2026.4月発行



愛知県議会議員 神谷まさひろ

「日記で綴る県政報告Vol. 38」をお届けします。今回は様々な行事への出席など議員としての活動の一端を紹介すると共に、2月定例愛知県議会において私が行った本会議での議案質疑や委員会での一般質問などについて掲載しています。ぜひともご一読頂き、県政を少しでも身近に感じて頂けたら幸いです。



2.21 政 ▶ 拉致問題は過去の歴史ではなく、現在進行形の人権侵害です

政 府の拉致問題対策本部と愛知県の主催による『拉致問題を考える国民の集いin愛知』に出席しました。

初めに拉致被害者ご家族の訴えとして、横田めぐみさんの弟の横田拓也氏、秋田美輪さんの姉の吉見美保氏が講演されました。目頭が熱くなるような内容で、拉致問題を他人事として考えてはいけないと改めて強く感じました。次に北朝鮮に拉致された日本人を救出するための全国協議会会長の西岡氏による講演です。

西岡氏は「拉致被害者救出の条件」として ①世論を背景にしてわが国に全被害者を救出する体制をつくること ②北朝鮮がわが国と交渉をせざるを得ない状況をつくることの2つを挙げられました。そして①については「高市早苗

総理の下で体制は出来つつある」とされ、②についても「経済破綻で体制危機を迎えた金正恩政権は米朝、日朝首脳会談を脱出口に捉えている」として条件ができつつあると言われました。

そして最後に、若い世代による意見発表として愛知県立福江高校1年生による発表が行われました。

拉致問題は過去の歴史ではなく、現在進行形の人権侵害です。一人ひとりが関心を寄せ続け、伝えることが解決に向けた大きな力になると信じます。



3.9 月 ▶ 保育人材の確保のために 「地域限定保育士」制度

2 月定例愛知県議会は本日も議案質疑、26名の議員が質問に立ちました。その中で、興味深い質問として「地域限定保育士」制度がありました。

「地域限定保育士」制度は2015年に制度化され、これまで特区として神奈川県・大阪府・沖縄県等で実施をされてきましたが、新年度より一般制度化されるようになったとのこと。

通常は筆記試験に合格すると次に実技試験を受けるのですが、この「地域限定保育士」は、27時間以上の講習を受ける

ことで実技試験が免除され、保育士としての資格を取得することができるものです。ただし3年間は地域限定とされており、他府県では保育士としての仕事はできません。しかし来年度からは、全国で勤務することができる保育士となるためには、1年以上の実務経験があれば可能になるとのことです。

愛知県としてはこれまで「地域限定保育士」制度については取り組んでいなかったのですが、市町村の中にはこうした制度を利用してでも保育人材の確保に努めたいとの声もあるようですから、検討してみる価値はありそうですね。

3.10 火

本会議での議案質疑 「県立高校の教育環境について」質問しました

愛

知県議会議案質疑の3日目。本日は24名の議員が質問に立ち、私は24番目、つまり最後に質問をしました。これで3日間に亘った議案質疑では延べ75名の議員が質問をしたこととなります。私の質問項目は「県立高校の教育環境について」です。

2026年度から、私立高校は授業料の実質無償化に加え、入学金も無償化されることになりました。大変喜ばしいことですが、授業料の負担が軽くなることで、学校選択の際に施設や環境の差がより目につきやすくなる可能性があります。

校舎や設備が新しい私立高校と、老朽化が進む県立高校。教育内容だけでなく、生徒が日々過ごす環境も学校選びの重要な要素になってくると思います。そこで私は「県立高校のトイレの洋式化」「教室や廊下の照明のLED化」「自転車置場やフェンスなど小規模設備の修繕」などについて質問しました。

教育委員会の答弁は「トイレの洋式化は当初予定を前倒

し、来年度から3年間で整備」「照明のLED化も計画を前倒し、2029年度までに整備」「小規模修繕などの維持管理も重要と考えているので、施設設備の適正な維持管理に努める」というものでした。

県立高校は本県教育の基盤であり、地域を支える人材を育てる大切な場です。「選ばれる公立高校」であり続けるためにも、生徒が毎日過ごす環境をしっかりと整えていくことが重要だと考えていますので、今後も現場の声を大切にしながら、教育環境の充実を訴えてまいります。



3.13 金

委員会で「グリーン水素の供給について」一般質問を行いました

愛

知県議会は今日から常任委員会が行われます。私は所属する経済労働委員会において、水素の「質」という切り口で『グリーン水素の供給について』一般質問をしました。

水素は製造方法によって、再生可能エネルギー由来のグリーン水素、化石燃料由来のグレー水素、グレー水素からCO₂を回収したブルー水素などに区分されており、こうした視点での水素の「質」ということです。

グレー水素は、天然ガスや石炭などの化石燃料を利用して作られる水素です。製造過程では多くのCO₂が大気中に排出されます。ブルー水素も同様に化石燃料を利用して作られる水素です。しかし、CO₂回収技術によりCO₂の排出を抑制するとともに、回収したCO₂を貯留したり、他の産業プロセスで利用することが可能となります。グリーン水素のデメリットは、製造コストが高いことです。大量の電気を使用し水を電気分解して生産されるため、ブルー水素の3～8倍程度のコストがかかります。

愛知県はカーボンニュートラルの実現に向け、2030年までに燃料電池商用車7,000台の導入を目標に掲げ、車両購入補助や燃料費補助、水素ステーション整備などの支援を進めています。

燃料電池車は走行時にCO₂を排出しないものの、使用する水素が化石燃料由来の「グレー水素」であれば、ライフサイクル全体では必ずしも脱炭素とは言えないのではないかと指摘し、水素の「質」とグリーン水素の供給拡大への取組について県の考えを質しました。

県もグリーン水素の製造・普及に対する様々な取り組みは行ってはいるものの供給はまだまだグレー水素が中心で、グリーン水素供給量と需要量のバランスは取れていないとのことでした。そして、当面は水素の「質」にはこだわらず、需要拡大と供給拡大を同時に取り組み、需要が拡大する中で、グリーン水素を製造・活用する仲間を増やし、低炭素水素の需要と供給のバランスが取れる状態に近づけるとのことでした。



3.16 月 ▶ 本日も委員会で「依佐美地区工業用地(第2期)」について一般質問

本日も私の所属する経済労働委員会が開かれました。先週の金曜日には経済産業局・労働局・観光コンベンション局・労働委員会事務局に関する案件について、そして本日は企業庁に関する案件と、委員会は2日間に亘って行われます。私は刈谷市の「依佐美地区工業用地(第2期)」について、進捗状況と環境への配慮について質問しました。

企業庁の答弁では、用地取得は2025年10月に完了し、現在は詳細設計を進めており、2027年度の工事発注、2032年度の工事完了を目指して整備を進めていくとのことです。

工業用地の整備は、地域の雇用の確保や、市内企業の市外流出を防ぐためにも重要です。一方で、市民の方からは「貴重な田園や自然環境を守ってほしい」という声も寄せられています。

この点について県からは、都市計画法や条例に基づき緑

地帯の設置や地域に適した植栽を行うほか、20ヘクタール以上の開発では事前に自然環境調査を実施し、有識者の意見も踏まえながら生態系に配慮した整備を行うという答弁がありました。

今回は開発は約26ヘクタールです。地域の雇用と産業を守りながら、自然環境にも十分配慮した開発となるよう、引き続き注視してまいります。



3.22 日 ▶ 名古屋岡崎線バイパス開通式 「飲水思源」この事業に関わった全ての先人に感謝です

主要地方道名古屋岡崎線バイパス豊明刈谷工区(豊明市沓掛町地内から刈谷市井ヶ谷町地内まで延長約1.2km)の開通式に出席し、セレモニーにおいてくす玉開披に参加しました。



名古屋岡崎線バイパスは、名古屋市緑区から豊明市、刈谷市、豊田市、安城市を經由し、岡崎市に至る延長約26.3kmの主要な幹線道路です。名古屋第二環状

自動車道や伊勢湾岸自動車道などの高速道路と接続して、自動車関連産業を始めとする本県の産業集積地間を結ぶ重要な役割を有する路線です。また、本路線は第二次緊急輸送道路として位置付けられており、災害時には物資輸送を担うなど防災上の観点からも重要な路線です。

この区間の開通で、残るは豊明中央工区の約2Kmと、既に開通している箇所でも片側1車線のところがありますので、それを全て片側2車線にすることです。

新しく整備された境川を跨ぐ橋の名称は『尾張三河橋』大村知事揮毫の名板が刻まれています。

式典・セレモニーの間、笑顔や笑い声が絶えない、とても明るく楽しい雰囲気、待ち望んでいた道路や橋がやっと開通するという喜びに満ち溢れたイベントとなりました。

3.24 火 ▶ 豊田西高校附属中学校 教育理念は『グローバル人材の育成』です

4月から開校する豊田西高校附属中学校の内覧会に伺いました。

愛知県が昨年から進めている中高一貫の第二次導入校である豊田西は、中高6年間の教育理念に『グローバル人材の育成』を掲げ「豊富な地域資源を活かした体験活動を軸とした探求的な学び」「語学力や異文化理解を高め、国際

性を育む学び」「多様な価値観の受容と協働意識の醸成を目指す中高一体型の学び」を3つの柱とした教育プログラムになっています。

今回高校の敷地の中に新たに整備された施設としては、鉄筋コンクリート造4階建 延べ面積2,267㎡の校舎、鉄筋コンクリート造平屋建 延べ床面積520㎡の小体育館、自

転車置き場などで、総事業費は予算ベースで23.5億円と なっています。

昨年開校した刈谷高校附属中学と同様、教室には黒板で はなくホワイトボードが設置されていました。しかも、教室 だけでなく廊下のいたるところに設置されているほか、教 室を仕切るパーテーションもホワイトボードとなっていまし

た。気付いたことを直ぐに書き 留めたり、皆で議論し合えるよ うになっているのだと思いま す。

尚、1期生の受験志願者倍率 は4.3倍とのことでした。



3.25 水 2月定例愛知県議会最終日 傍聴席に介助犬の姿が

2

月18日(水)から36日間の会期で行われた2月定例 愛知県議会も今日が閉会日となりました。

令和8年度の一般会計予算3兆2,224億余円を始めとした 全ての予算案や条例の制定・一部改正案、副知事・教育長の



選任案など、今議会に提出 された94議案のうち、3月 11日に早期議決をした24 議案を除く70議案につい て、すべて議決致しました。 一般会計当初予算が3兆

円を超えるのは初めてで、秋に開催されるアジア・アジアパラ 大会の費用に1,455億円が計上されました。

そして今日は本会議場の傍聴席に、障害のある人の日常生 活の手助けをする「介助犬」が初めて入っていました。

ラブラドル・レトリバーの介助犬2匹(うち1匹はまだ訓練 中)です。県議会の本会議場には盲導犬が入ったことはありま すが、介助犬は今回が初めてで、開会を知らせる鐘の大きな 音や、議員の大きな声が響く中、トレーナーの指示に従い傍 聴席で静かに「伏せ」をして待機していました。

3.30 月 県政報告会で皆様の声をお聞きしました

熊

市民館において県政報告会を開催致しました。

今後行われる愛知県の大規模事業の他、「日記で 綴る県政報告」の36号と37号の中から10項目ほど報告をさ せて頂きました。「県政報告会」という名前がついていますが、 県政を「報告」する場であると同時に、皆さんの意見を「聞く」 場でもあります。質疑応答でのやり取りを2件紹介します…

(問1) 先日の新聞一面に「愛知から年1万人が東京圏へ流 出している」との記事があった。その対策はどのようなこ とをしているか?

(答) 「若者の東京圏への流出を抑制するだけでなく東京圏 から還流する取組を推進する」といった目的で、名古屋と



東京に「あいちU IJターン支援セ ンター」を設置 し、UIJターン希 望者に対して県 内企業の求人情 報の提供や個別

相談等の就労支援を行い、中小企業を始めとする県内企 業の人材確保を図っています。

その他、スポーツや音楽イベントを呼べるIGアリーナ の整備、統合型リゾート(IR)の誘致など、若者を呼び込む ための楽しくエキサイティングな場所の創設も必要と考 えています。

(問2) アジア・アジアパラ大会の経済効果は?

(答) 2025年12月22日に「アジア・アジアパラ競技大会に 係る経済波及効果」として下記のように公表しています。

- 全国への経済波及効果 3兆6,831億円
- 県内への経済波及効果 1兆8,177億円

UIJとは…

- Uターン 「地方→都市→地元の地方へ戻る」
- Iターン 「都市で育った人が地方へ移住」
- Jターン 「地方出身者が地元に近い地方都市へ」

